

# 猫の目人の目

「猫からのギフト」

以前、新聞に掲載されていた「くらしの作文」

『宿泊した宿で夕飯に出された生きた鮑が可哀想でどうしても食べられずその鮑を海に戻した。鮑の恩返しがあるよ・・・とあとから言われたが、今のところない』・・・という作文。

最後の落ちにクスッと笑ってしまいましたがそんな奇抜な人もいるんだなあ～と思いつつ私自身も「猫を助きたい」という相談者さんに

「きっと猫の恩返しがありますよ」とよく言います。

実際本当に恩返しがあるかどうかなど分からないし恩返しを期待して猫を助けようなどと考えている人はいないと思いますが生きものを想いやれる優しい気持ちは形を変えて、その人にギフトがもたらされると私は信じています。

はて、私には猫からのギフトは届いたか??

はい、もちろん届きましたとも!・・・それは

この活動の中で、たくさんの猫や人との出会いを通して

嬉しかったこと、悲しかったこと、感動したこと、怒れたこと、学んだこと・・・

ねこネットあまに入っていなかったら絶対経験できなかった「すべて」が、猫から届いたギフトだと思っています。

会員 SH



賛助会費・ご寄付の窓口

「ねこネットあま」

- ・三菱 UFJ 銀行 尾張新川支店 普通 0081998
- ・ゆうちょ銀行 記号 12190 番号 19750421

# あまねこだより

小さな命を守りたい 第37号  
殺処分ゼロを目指して 2024年7月



～ 今こそ「三者協働」を ～



会が発足して12年半が過ぎました。

その間に「地域猫」「TNR」が知られるようになり、餌やりさんや周囲の方たちが自発的に不妊手術をされるようになってきました。

不毛地帯だった尾張一体にも、住民に押されて地域猫に関するセミナーが開かれたり猫のボランティア団体も芽生えたりして、少しずつ「地域猫活動」が根つき始めてきているように思います。

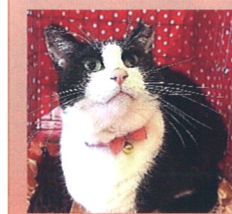
反面、年々増えてくるのは不妊手術を怠ったゆえの多頭飼育の相談です。猫の繁殖力を知らない、手術費がない、無頓着など理由は様々ですが、餌をあげていたらいつのまにか増え、ご近所様から苦情が来るようになったからどうしようという相談は後を絶ちません。それは、外飼いの猫に限らず室内の飼い猫も同じです。

愛知県は今年4月から「犬猫あわせて10頭以上飼育する場合は届出が義務」とされるようになりました。年々多頭崩壊が増える中、その予備軍の把握が目的のようです。

が、多頭飼育の問題を解決するためには、頭数把握だけではなく猫という動物の特性の周知、過剰繁殖を抑えるための手術費の確保、何よりも地域住民やボランティアとの協力など、多くの課題をかかえていると思います。

命を大切に、人にも猫にも優しい社会をめざして、今こそ行政・住民・ボランティアが心を一つにして「三者協働」を進める時ではないでしょうか。

会員 T



ねこネットあま

連絡先 [neko8aigo@yahoo.co.jp](mailto:neko8aigo@yahoo.co.jp)

ブログ [http://blog.goo.ne.jp/ama\\_cats](http://blog.goo.ne.jp/ama_cats)

Facebook・Instagram・Twitter もやっています!



## 蟹江支部活動報告

「蟹江で初めての譲渡会」

～カルバートパークの2Fから始まる出会い～

昨年秋の事です。毎月2回、定期的に行っていたあま市内の譲渡会場の予約が取れなくなりました。コロナ終息の兆しの中、久しぶりの秋祭りや催しが目白押しで、会場はどこも予約で一杯。会員が手分けして、空き店舗や空き倉庫も当たりましたが、1ヶ月半の期間、借りられる会場が見つからず、途方にくれました。

以前、集団手術の際にお世話になった加藤建設様に、空き倉庫でも、と相談したところ、こちらの施設を使ってくださいと仰って頂いたのが、蟹江のお洒落なカフェ、カルバートパークの2階でした。

下見に伺い、カフェの清潔さと明るさに、若いお母さん達が屋内の砂場で幼い子供達を伸び伸びと遊ばせている姿に、目を奪われました。

その吹き抜けの2階の突き当り、日当たりのよいワークショップルームをお借りしての、12月17日と1月7日の譲渡会には、沢山の見学者と、20数頭の保護猫が集まりました。あま市からのメンバーの応援や蟹江のボランティアさんのお陰です。この日、譲渡が決まった猫の数は多くなかったけど、次に繋がる手応えを感じます。

地域に根付いた憩いのスペースに、新たに猫たちの参加を受け入れて頂いたことに感謝しつつ、このような小さな譲渡会が、身近な場所で開けることを願っています。

会員A



## 地域猫セミナーに参加して

先日、蒲郡で開催されたセミナーにて、元・練馬区保健所職員で現在は地域猫活動の普及啓発をされている石森氏の講演を聞いてきました。

「地域猫活動」とは、愛知県のガイドラインを噛み砕いていうと、住民合意のもと地域ぐるみで飼い主のいない猫（以後わかりやすくノラねこ）を《手術→元居た場所に戻しお世話をする》ことで、将来的に数を減らしていくというものです。

具体的な方法はここでは省略しますが、その活動は地域住民が主体となり、行政、動物愛護ボランティアと連携をとり進められます。様々な立場や価値観の人との関係づくりのうえに成り立ちます。

地域には、猫好きも猫嫌いもそのどちらでもない人も生活しています。例えばノラねこがお腹をすかして不憫だからごはんをあげたい人、一方でノラねこの糞尿に迷惑している人…増えたノラねこを何とかしたい！という思いは同じです。

地域猫活動は将来的にノラねこを減らすことを目的としていますが、ノラねこがいてもひとりひとりの心がザワつかない安心な地域社会にすることをめざしています。

ねこへの思いも大切だが、ねこを取り巻く人間への働きかけが要となる活動。

ノラねこが嫌われものにならないために、人々が暮らしやすいまちづくりのために…自分には何ができるのかを改めて考える機会となりました。

ボランティアY

